

## ＜株式会社エフエム東京 第328回放送番組審議会議事録＞

1. 開催年月日:平成18年2月7日(火)

2. 開催場所:エフエム東京 本社10階大会議室

3. 出席委員(7名)

子安美知子 委員長

青池 慎一 副委員長

香山 リカ 委員

渡辺 貞夫 委員

内木 文英 委員

横森 美奈子 委員

内館 牧子 委員

4. 番組試聴

【番組名】「SCHOOL OF LOCK!」

【放送日時】2005年11月29日(火) 22:00～23:55

【番組概要】

“全国の青き若者たちの未来のカギ(LOCK)を握る、もうひとつの学校!”をコンセプトに、昨年10月にスタートし、TOKYO FMをはじめとするJFN系列全国38のFM局で夜10時から放送している2時間番組です。パーソナリティーのやましげ校長とやしろ教頭ほか、人気アーティスト、女性タレントたちをレギュラー講師陣に迎えて、毎回、中高生を中心とした若者たちの問題に正面から向き合い、熱くて温かいトークを展開しています。

中高生たちとのコミュニケーションが核となるこの番組では、各コーナーにインターネット掲示板を設置しているほか、携帯メールや、会員向けメルマガなど、若者たちにとっては既に生活の一部となっている通信手段を駆使した番組づくりを行っており、着実にその参加者を増やしつつあります。番組を開始した10月にはおよそ1,000万PV/月だった番組ホームページ(PC+携帯サイト)へのアクセス数が、2ヵ月後の12月には倍以上の2,100万PV/月を記録しています(1月は2,700万PV/月でした)。

本日お聴き頂く11月29日の放送では、自分が「ニート」であることを悩む若者たちに電話を繋ぎ、パーソナリティー、番組スタッフ、そしてリスナー全員で「ニート」について真剣に考えました。

【「SCHOOL OF LOCK！」番組概要】

■ 放送日時:毎週月曜～木曜 22:00～23:55

(2005年10月放送開始・TOKYO FM他全国38局ネット)

■ パーソナリティー:やましげ校長、やしろ教頭

<日替わり講師>

(月)RIP SLYME、(火)ゆず、(水)ASIAN KUNG-FU GENERATION、(木)氣志團

<週替わり講師>

(1週目)香椎由宇(かしい ゆう)、(2週目)榮倉奈々(えいくら なな)、

(3週目)堀北真希(ほりきた まき)、(4週目)栗山千明(くりやま ちあき)、

(5週目)貫地谷しほり(かんじや しほり)

<「KIT KAT presents GIRLS LOCKS FRIDAY」講師(金曜22:15～22:55放送)>

(金曜日)鈴木杏(すずき あん)

<試聴時間:約23分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○ 校長と教頭の掛け合いが良かった。最初の騒々しいテンションとリスナーとの電話の時のテンションにギャップがあったが、騒々しさは計算で、「お前らの側の人間だよ」というメッセージなのだと感じた。この2人ならばリスナーは話しやすいだろう。色々なことを考えながら聴いていた。自分の経験からも動いたほうが良いと思う。実際に「才能が無い」ということを親や先生はよく言うが、これは良くない。こう言われると子どもは、自分の夢に向かって頑張らなくても良いと思い安堵する。(試聴番組で)電話を繋いだ女の子の悩みは、私の時代だと28歳くらいの人の悩みだが、今はそれが18歳におちている。この現実はどうしたらいいものか。校長と教頭は良い台詞をいくつも言っている。「走ったほうが一生懸命息を吸える」。これは出色の台詞だ。この意味をリスナーが分かっていたらいいなあ、と思った。

2002年に、日本・中国・アメリカが同時に、中学生1300人くらいに同じ質問でアンケートをとった結果が最近出ていた。各国との日本のギャップが凄かった。「自分に価値が無い」に丸をつけた子どもが日本は圧倒的に多かった。「何もしなくて楽に暮らせるならそうしたい」「勉強は家でしない」も圧倒的に日本が多かった。非常に面白い結果だった。リスナーの視点だけではなく、クールな視点を持つと、この番組はもっと良い番組になっていくと思った。

- 個人的に何度か聴いていた番組。校長と教頭はどんな人なのだろうと思っていた。きちっとした考え方を持っている人たちであり、良い人たちを投入したなと思っていた。最近の若者について勉強になる面白い番組。私たちの子どもの頃はこんなことで悩んでいなかったなと思いながら聴かせて頂いている。今回の試聴番組のポイントは、カテゴリーやラベリングからの開放。人からそういうふう期待されると実際にそうになってしまう。若者は多くの可能性もっているが、彼らをカテゴリーにはめ込んでしまうと、自己概念までもそうになってしまう。校長と教頭はそこからの解放の刺激を与えてくれた。そのプロセスが面白かった。また、校長と教頭は達成動機のエネルギーも注入している。この辺も若者に共感を得ている部分だと思った。番組を通してリスナーが学ぶことはもちろん、番組自体も変わっていくだろうと思った。それもまた楽しみだ。
- 若い人たちを真正面から捉えているのが非常に良い。個人的にラジオを使った教育に何年間も携わってきた。人間関係をうまく作れない子ども、経済的な事情、その問題は一樣では無かったが、彼らを真正面から捉えてきた。ある女の子の作文に中学校の校長先生への恨みが書かれていた。長いこと学校に行けなかったが、卒業式に出たところ、校長先生に「自分が間違っていたこと分かったでしょう?」と言われた。彼女は腑に落ちなかった。私が指導にあたってから、彼女は「中学校の頃から止まっていた時計が動き出した」と作文に書いてきた。一人の対応が一人の人生にこれだけの影響を与えるものかと思った。そういった意味で、今日の試聴番組で、あの子の話をしっかり受け止めて、誠実に答えていたのは素晴らしいことだった。あのコミュニケーションが大切だ。大変意義深い放送だった。
- ラジオ離れしている10代が飛びついたということは素晴らしいこと。イントロダクションがちょっとひどいなと思ったが、それでも子どもたちが飛びついたのは、彼らに問題や悩み、すがりたい気持ちがいっぱいあるのだと思った。この番組の姿勢は素晴らしい。良い形で発展して行って欲しい。ただ、校長と教頭には意表を突かれた。なぜ最初から怒鳴らないといけないのか? 音楽もがちゃがちゃしていて、せっかく良い趣旨の番組なのに、もっと格好良くできないものかと思った。電話をつないだ女の子との話にいくまでだらだらとしていて、そこまでリスナーは良く待っていたなあと考えた。もっと丁寧に作って欲しい。

- インターネットで見知らぬ人とこれだけコミュニケーションできるのか、ということを経験者のホームページを通じて実感している。実際に会うと旧知のような懐かしさを感じるときもある。個人的にはインターネットでのコミュニケーションにリアリティを感じているので、最後の方はうるうるとした。誰にでも悩みはある。些細なことでも同じ事で悩んでいる人をみんな探している。インターネットではこれが容易くできてしまう。ただ得体の知れないサイトに書き込むのは怖い。TOKYO FM がやっているから安心して書き込めるという部分でも、膨大なアクセス数に繋がっているのだろう。今っぽいし、デジタル慣れしている若い人にとっては入っていきやすい番組だ。身近な問題を扱っている上に、インターネットや放送を通じたコミュニケーションは彼らにとって入っていきやすいリアルなものなので、番組のホームページに書き込まれた「感動した」や「泣いた」というコメントは嘘じゃないと思った。こういう場をTOKYO FM が提供しているということは素晴らしい。
- 「どうなるかわからない」番組。電話の向こうのリスナーが怒ったり泣いたりする可能性もある。若い人たちは励まされたいと思う一方、押し付けられたくない、怒られたくない、という矛盾した感情の中で生きている。すごく微妙な狭間で揺れ動いており、どっちに転ぶかは大人じゃ分からない部分もある。そのため、このパーソナリティの2人も何かをきっかけに「うるさい」「説教じみている」と総スカンをくらってしまうかもしれない。今のところは、ギリギリのところで支持を集めているが、流れが一斉に変わる可能性も常に孕んでいる。ただ何がきっかけになるか、どうなるかということは誰にも分からない。そういった部分でこの番組の発展は難しい。毎回が一発勝負。偶然や奇跡の積み重ねでしか成り立たないような種類の番組ではないかと思った。計画的に発展させるのは自己矛盾であろう。逆に裏が見えて若い人たちはいやらしさを感じるかもしれない。可能性がありそうだけど危険もはらんでいる。パーソナリティの人たちがクラッシュしたり燃え尽きたりしなければいいなと思った。
- 今の中学生・高校生は、自分の中にある真面目な部分を本音として出す、ということが日常の学校生活の中でできないと聞くと、この番組のおかげでその感情を出せるというのが大切なことだと思った。色々な試行錯誤が番組としてはあると思うが、毎日2時間、若い人たちと一緒に考えたりコミュニケーションを取ったりする時間があるということが、実に良い事だと思った。今回のニートの問題については、大人たちもこの問題をきっちり考えることが重要だと思った。私たちの若い頃はこうじゃなかったでは済まされない。私たちが育てた次の世代がこうなっているのはな

ぜだろうと考える。これらの積み重ねが含み込まれて社会が深いところで大きく変動しているように感じる。これは人ごとではない。試行錯誤を重ねて作っていった欲しい。

- 実際に予定が立てられない番組。明日はもちろん、今この瞬間もどうなるか分からない番組。一瞬一瞬にどれだけの魂がつぎ込めるか。出演者もスタッフも毎回体当たりで臨んでいる。どこまでできるか分からないが、これからも色々な企画を考えがんばっていきたい。

#### 5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

#### 6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「TOKYO FM ブランニューソング」  
2月24日(金) 5:00～6:00放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内  
<http://www.tfm.co.jp>

#### 7. その他

次回審議会は3月7日(火)に開催することを決めた。

以 上